

東京慈恵会医科大学 英語

2020年 2月 5日実施

I.

1. (A) 4 (B) 1 (C) 4 (D) 1
2. (1) 1 (2) 4 (3) 3*
3. 2
4. 3
5. 1
6. Future cancer treatments should not just prevent dividing cells from multiplying but also consider regulating non-dividing cells, which are invasive and end up causing metastasis.

*2. (3) について：

正答として 2 を選ぶか 3 を選ぶか、非常にきわどいところである。insight は日本語では一般に「洞察、見識」と訳されるが、Oxford 英英辞典の定義によれば an understanding of what something is like とあり、あくまで「人の内的な理解」を表す語である。したがって、discovery という客観的で実体のある概念とはそぐわないとする言語学的見地から、3 を正答とした。一方、この the insight を内容的に分析すると、これは前段落までで述べたがんの転移に関する理論を指した表現である。ふつう、内的な理解を指す insight に定冠詞 the がつくことは考えにくく、「insight の産物として生じた（実体のある）理論」という意味合いを帯びていると解釈すると、2 の discovery も解答として不適であるとは言いがたい。

【講評】

がんの転移のメカニズムに関する研究論文。tumor「腫瘍」、proliferation「(細胞などの)増殖」、membrane「膜」など生物学用語が多用されており、こうした語彙が不足している者はかなり厳しい戦いを強いられたかもしれない。6. の作文問題は、「がん治療をより効果的にするためにはどういった変化がもたらされるべきか」について自分の言葉で英作文をするというテーマであったが、現行のがん治療の問題点と将来への展望については本文第 4 段落に記述があり、実質的にこの部分の要旨を自らの言葉で再構築できるかどうかを問うていると考えればよいだろう。なお、制限語数などは指定されていないが、解答欄が 2 行程度であったとする受験者からの情報に照らして解答を作成した。

II.

Question A.

- (a) life (b) but (c) it (d) much

Question B.

1. (D) 2. (A) 3. (B) 4. (D) 5. (A) 6. (C) 7. (A) 8. (B)

【講評】

終末期医療における緩和ケアの効果に関する文章。論旨は比較的つかみやすいだろうが、選択肢には紛らわしいものも多く、丁寧な読み込みが必要となる。空所補充問題は (c)・(d) がかなりの難問。(c) は文脈自体はとりやすいうえ、次の段落に attend a wedding という表現もあるため一見簡単に思えるが、make attend to the wedding では意味を成さない。

III.

1. (A) 1 (B) 4 (C) 4 (D) 2

2. (1) 3 (2) 2 (3) 1 (4) 2

3. 1

4. 4

5. 2

6. Our new theory focuses on these two different patterns: artificial neurons with human-like preference and those without

【講評】

「ギャンブラーの誤謬」に関する文章。本文自体は3題の中では比較的読みやすく、客観問題については極力ここで多めに得点しておきたいところ。しかし、6. の英作文はかなりの難問。原典では How likely an event is to occur and when it is to occur are two different questions とあったが、60分という試験時間の中でここまで思い至れる受験生は稀であろう。要は、前後関係を見たらうえで矛盾しない内容が書ければよい。解答例では、空所の後の「旧来の研究ではそれらを区別してこなかった」という記述に注目し、「我々の新しい研究では、人間のような嗜好をもった人工ニューロンと、そうでない(=合理的な確率論に従った)ニューロンの違いに焦点を当てている」という内容を補ってみた。

【総評】

東京慈恵会医科大学では2018年度に大幅な傾向変化があり、2019年度は概ねそれを踏襲するスタイルであったが、本年度はそこからさらに変革があり、大問が1つ減って長文3題構成となった。これにより、伝統的に出題されてきた英訳問題は姿を消すこととなった。しかしながら、大問Ⅰでは本文の論旨を自らの英語で表現する問題が、また大問Ⅲでも本文の流れに合うように空所を英作文で穴埋めする問題が出題されており、正しい英語を書けるということの必要性は依然として高いままだということに留意しておきたい。他の変更点としては、設問の指示がすべて英文になったことや、昨年度出題された和訳問題が消滅したことなどが挙げられる。

メルマガ無料登録で全教科配信！ 本解答速報の内容に関するお問合せは YMS☎03-3370-0410 まで

☎ **03-3370-0410**

受付時間 8~20時 土日祝可
<https://yms.ne.jp/>
 東京都渋谷区代々木 1-37-14



☎ **0120-146-156**

携帯からOK 受付時間 9~21時 土日祝可
<https://www.mebio.co.jp/>
 大阪市中央区石町2-3-12ベルヴォア天満橋